

委員名簿

学校運営協議会委員 10 名 (敬称略)

梶原 健司	神奈川総合産業高等学校 校長
森 武昭	神奈川工科大学 特命教授
松谷 康之	青山学院大学理工学部 教授 (欠席)
天野 和広	相模原市立大野南中学校 校長
今野 友行	岩崎学園 横浜デジタルアーツ専門学校 教務部 部長 (欠席)
関 みどり	相模原市経済学部 雇用政策課 課長
橋元 雅敏	さがみはら産業創造センターSIC 代表取締役
八木橋 昭	文京中央自治会会長
森 恭子	全日制サポーターズ会長
安齋 明子	定時制後援会代表

学校職員

居石 博幸	副校長
福田 浩之	教頭 (全日制)
佐藤 弘之	教頭 (定時制) (欠席)
岸 慶郎	事務長 (欠席)

全日制

増山 一光	総合企画推進グループ (代理)
横尾 修介	教育課程グループ
小泉 学	健康相談グループ
最上 洋美	生徒活動グループ (代理)
池山 弘司	進路ガイダンスグループ
篠原 正樹	総務管理グループ
伊藤 豊	連携広報グループ
森本 穰	連携広報グループ (記録) (代理)

定時制

萩原 益弘	学事グループ
樋口 順亮	生活指導グループ (欠席)
佐藤 昌和	生徒支援グループ
数間 一博	管理グループ (欠席)

1 会長挨拶

第3回の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）ということで、どうぞ皆様の忌憚のないご意見で学校を推進していこうと思っていますので、ご協力も合わせてよろしくお願いします。なお本日、定時制分割募集の志願受付を行っている関係で欠席している職員がいるということはお許しいただきたい。

2 第2回学校運営協議会の意見聴取（質問）と回答について

（副校長）

資料1（p. 3）の通り

第2回学校運営協議会で挙げた意見聴取やご意見については打合せ記録として各委員へ郵送しているためご覧いただき説明は割愛させていただく。ただ今後どうしていくべきかといった検討事項がある項目については、次年度以降の課題として、そのときの学校運営協議会で図っていきたいと思っている。ご指摘等ありがとうございました。

3 平成29年度の取組みについて（各グループリーダーより）

(1) 全日制 進路ガイダンスグループ

資料2（p. 4）の通り

生徒・保護者からの進路相談、奨学金、インターンシップ等が中心の業務グループである。

奨学金に関しては今年大きく形態が変わり希望者が多かった。インターンシップに関しては以前質問をいただいて細かく載せている。別紙に進路決定状況の中間報告を載せているが昨年とそこまで変わっていない進路状況である。

(2) 全日制 健康相談グループ

資料3（p. 5）の通り

生徒の心の健康、体の健康および防災の3点を中心に扱っている。10月以降に様々な講演会を開いた。本校の生徒に適した内容のものを精選し、生徒の心と体の健康のみならず、ライフスケジュールの中でこの時期に是非やっておきたい内容を考えて提供している。

(3) 全日制 生徒活動グループ

資料4（p. 6～10）の通り

p. 8に記載されている交通安全教室は毎年シミュレーターを使って自転車の乗り方を実践させていたが、今年は(株)セルクルの自転車安全講習会を実施した。学校周辺の交通事故に遭いそうな所を(株)セルクルが事前に調べてくださり、そこについてどういう事故が起こりやすいのか、どういうふうな事故を回避したら良いのか等を講習会として開催した。

地域に貢献するような活動ということで色々取り組んでいきたいところですが、どうしても学校との都合と依頼者との都合が合わず参加出来なかったものもある。今後も都合を合わせながら地域の活動に参加したいと考えている。

(4) 全日制 連携広報グループ

資料5 (p. 11～15) の通り

主に広報活動、地域との連携ということで本校の施設設備を使った体験教室を実施している。

主な広報活動は6月から12月までの間の学校説明会で、毎回200名を超える方々が来てくれて、今年の入試の倍率も1.17倍ということで一定の成果が出ていると考えている。体験教室については小学生科学技術体験を例年は鶴の台小学校のみ実施していたが、今年度は谷口台小学校と大沼小学校の計3校で実施することができた。5年生か6年生の総合的な学習の時間の一環になると聞いている。本校で7つの講座を用意して体験していただいた。それぞれアンケートを取ると「非常に面白かった」という意見が多かったので、理工学系への興味づけには一定の成果があったのではないかなと思っている。この行事をきっかけに理工学系の専門学校への進学、大学、そして会社へと繋がっていくと思うので、今後も全職員体制で続けていきたい。

第2回学校運営協議会で「本校らしさのアピールは何か？」という質問が出ていたと思うが、相模原地区の特色ある学校の1つである本校の教育課程の特殊性をPRするのが第一だとグループで考えているので、今後ともそこを中心にPRしていこうと思っている。

(5) 全日制 教育課程グループ

資料6 (p. 16～18) の通り

p. 17にある12月に実施した第2回学習計画ガイダンスは1年次生・2年次生が対象である。本校では一人ひとりの時間割が違うということから進路実現、そして生徒の想い、生徒の履修状況をしっかりと把握して個人時間割を作成していかなければならないということで、この時期に面談等を使って実施している。この後、中学3年生を対象に新入生の学習計画ガイダンスを3月17日、個別ガイダンスを3月22日に実施する。

今年度から実施した100分授業と半期単位認定制(セメスター制)が生徒の学習に適したものであるかという検証を重要視して、生徒・職員対象アンケートを2回実施した。この結果を見極め、次年度(平成30年度)の教育課程は大きく変更することが出来ないが、平成31年度は大きく変更していかなければならないと考えている。

セメスター制については神奈川県がどういう形で推進しようかという中で、本校は前倒しで進めている県下6校のうちの1校である。大学のようなイメージを高校でどう導入するかが焦点にある。

(6) 全日制 総務管理グループ

資料7 (p. 19) の通り

12月8日に神奈川県からの指定で3教科の学力調査が行われた。調査対象の2年次生は230名ほどいるが、当日の欠席が33名ということで多かった。この学力調査は成績に関係ないという理由で安易に休んでしまっているのが、今後の検討課題であると認識している。

全校集会は体育館で行っているが、天候の関係で夏は暑く、冬は寒いため、体調を崩す生徒がいたため、放送等で実施を検討している。

(7) 全日制 総合企画推進グループ

資料8 (p. 20～24) の通り

留学生受入事業では今年度7名の受け入れをしている。長期留学、短期留学と様々ではあるが、積極的な留学生も多く、2名の留学生については山岳部に所属し尾瀬に行った事もある。

授業研究・生徒による授業評価について、本校はセメスター制を導入しているため前期で終了、後期で終了する科目が多い。よって前期と後期を比較検討することは難しいが、前期を踏まえて後期の授業を改善した教員が多く、それが結果として示されていると思う。

(8) 定時制 学事グループ

資料9 (p. 25～26) の通り

在籍数は3月1日現在で275名となっている。昨日卒業判定会議があり、3年次生21名、4年次生35名、計56名が3月7日卒業予定である。それ以外にあと何単位か修得すれば卒業となる3年次生が4名いて、これらの生徒は技能審査や資格検定で単位修得している。一般的な学校と違い、色々な形で単位修得できるのが本校の特徴であり、学校での学びのほかに技能審査、資格検定、高卒認定試験等で数多くの単位を生徒は修得している。また全日制に協力してもらって課程間併修や、他校の通信制の授業を受けられる等、色々な単位の修得方法がある。

転編入試験については4月1日にまたあるが、4～5名ほどが受検するのではないかという情報が入っている。これから募集を始めるが問合せの段階でそういうことになっている。

これから履修ガイダンス期間に入り、面談を通じて次年度の授業の確認や単位を落としてしまった生徒のフォローをしていく。

p. 25 に書いてあります授業改善については生徒の授業評価を受けて取り組まなければならないところがある。それは生徒の方が教員よりシビアに捉えているところがあり、「もっと授業中に厳しく指導してほしい」といった意見が数多く挙がっている。また昨今話題になっているアクティブ・ラーニングも積極的に取り入れて欲しい。要するにビデオやパワーポイント、テレビ等を用いて授業をして欲しいという生徒からの意見も挙がっている。全ての教員ではないが実施している授業もある。これは永遠のテーマであると思うが、今後も生徒の意見を取り入れながら授業の改善を行っていききたい。

(9) 定時制 管理グループ

(副校長)

資料10 (p. 27～29) の通り

広報活動に関して、県立定通合同説明会を実施した。来場者数は少なく感じるかもしれないが、人数が少ない中でこの人数は多い方だと感じている。また本校で実施した説明会でも定時制は定員割れをする中で、興味関心のある多くの生徒・保護者が来校されて盛況に終わった。

地域連携として、園芸関係の教員を中心に校内の整備の植栽事業という形で地域の方をお招きして毎年行っている。今年度はなかなか参加していただけなかったということで、広報活動を早めにとという反省があった。

(10) 定時制 生徒支援グループ

資料 11 (p. 30～31) の通り

生徒会活動と進路に関する業務を行っている。生徒会活動については生徒の能動的・主体的な活動をやっていくよう取り組んだ結果、神奈川県教育委員会より児童・生徒表彰を本校生徒会本部役員が受賞した。また、高校生新聞社賞としても本校生徒会本部役員が受賞した。部活動に関しては4月に部員の募集をしているが、継続が難しいということがある一方で、12月、1月からでも部活動をやりたと思った生徒が始められるということも定時制の良さである。今も部員は夏前には減ったりもするが、各顧問が丁寧に対応することで結果を残している部活動もある。

卒業予定者は56名、うち3年次生は21名となっている。就職の12名に関しては学校を通じてのものとなっている。これ以外には縁故や自分の家を継ぐといった生徒もいるため、就職の人数はこれよりも多い。進路指導に関しては定時制の生徒は様々な事情を抱えており、全職員悩んでいるところではあるが、なかなか自分の思うような進路を決められず卒業していく生徒もいる。そういった生徒へ今後どうやって指導していくかが課題となっている。

(11) 定時制 生活指導グループ

(副校長)

資料 12 (p. 32) の通り

11月27日に警察署の方をお招きして交通事故ゼロ運動を実施した。相模原地区は非常に自転車事故・交通事故が多発している地区ということで不名誉な数値がある。また、本校と相模女子大学の間の道路が狭くなっていて今年度も何回か事故事例があった。そういったことを防止する注意喚起として生徒が一丸となって活動させていただいた。また、携帯電話教室や薬物乱用防止講演会といった形で、生徒にやって良い事と悪い事との見極めや考え方を学ばせる機会を与えている。

4 平成29年度(全日制)学校評価報告書について

(教頭(全日制))

資料 13 (p. 33～34) の通り

「2 生徒指導・支援」は、いじめ対策会議ということできめ細かくアンケートを取りながら生徒一人ずつの状況を確認しながら「いじめは絶対に許さない」という姿勢で取り組んでいる。小さい案件は出ているが重大な案件は一切ない。「3 進路指導・支援」は、AOや推薦で決まっていく生徒、逆に最後まで一般受験で頑張る生徒も多くいる中で最後まで指導している。それなりの集計結果が出ている。「4 地域等との協働」は、小学校の科学技術体験教室は今まで1校だったものが3校に拡大してやっている。それなりの評価を得て地域の子どものための科学教育の一端を担っている。またホームページ等の改善も行い、より地域に我々の活動を見ていただけるようにしている。「5 学校管理・学校運営」は、災害時の生徒の引き取り方法がまだ明確に出来ていない。それも含めて災害等の対応をきちんと議論していきたいと考えている。

5 平成 29 年度（定時制）学校評価報告書について

（副校長）

資料 14（p. 35～37）の通り

少人数とはいえ多様な生徒がいる中でどのように教育活動をしていくか。例えば言語活動を充実させる、興味関心を引くために GWPW（Group Work Pair Work）を活用すること等、様々な取り組みを与えて実践している。特に定時制の場合はキャッチコピーが「そうか！わかった！につなげる」というところを目標にしてやっている。「2 生徒指導・支援」は、多種多様な生徒の悩み等にどう答えていくか、どう解決していくかというところで今後課題であるのと同時に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関を利用した支援を行なっている。また、情報端末による事故が多いので、防止するための講習会や防止教育を引き続き行っていく。「3 進路指導・支援」につきましては、全日制の上級学校が目標とは違って、定時制の場合はいかに卒業させるかに限定されてはならないという中でなかなか上手くいかない。それについてはグループと話し合っ、卒業させるのと同時に進路も確実に決めてあげるといった形の取り組みを行っている。「4 地域等との協働」につきましては、地域連携を通して「定時制は暗い、怖い」といったことを払拭する努力が必要であると考えているので、職員で協力し合っ、取り組んでいく。「5 学校管理・学校運営」は、防災訓練が挙げられる。定時制なので真っ暗な中で停電した場合、どう安全に避難するべきかを防災訓練のときに実施している。

6 本校の現状と課題について

7 意見聴取（●：学校運営協議会委員、○：学校職員）

- 全日制 総合企画推進グループが実施した「生徒による授業評価（p. 23）」では 90%以上が 4 か 3 ということで非常に良い結果を得ているが、全日制 教育課程グループが実施した「100 分授業について（p. 18）」では 70%近くが良くないと出ていて、あまりにも格差がありすぎるのはなぜか。
- 「生徒による授業評価」は 100 分授業という視点では聞いていない。今受けている授業はどうかということなので、色々な教員が様々な工夫をして授業を展開しているのでこのような高評価を得ているのではないか。「100 分授業について」というアンケートは「90 分授業について」としても同じ結果を得たと思っている。
- 100 分授業になって授業に集中できない生徒が 74%、講義中心の授業が充実していないと思っている生徒が半分以上いることに対する見解はどうか。
- 講義中心の授業はやはり厳しいものがある。これに関しては検討していかなくてはならないことだと思っている。
- 最近新しい大学入学共通テストというのが挙がってきているが、神奈川総合産業高校ではそれに対してどういった考えを持っているのか。
- 教育課程グループのほうではそういった話題は挙がっているが、まだ教科・科目では意見を交わしていない。

●企業との共同研究や共同開発といったものは取り組んでいるのか。

○市の経営者の方が講演するといった連携はできていたが、商品開発となると授業のスケジュールに合わせて企業の方と一緒に取り組まなければならないので、スケジュールリングが上手くできないというのがある。学校としては機会があれば是非お願いしたい。100分授業の兼ね合いでなかなか難しいと思うが、一番可能性があるのは課題研究Ⅰ・Ⅱでの実施で、過去に実績があるので、今後とも進めていきたいと思う。

●学力調査で欠席した生徒に対して学校としての対応は何かしたのか。

○特になにもしていないので、今後の検討課題としたい。

●条例で高校生でも自転車事故で損害賠償請求がされることになるが、自転車保険への指導はどうなっているか。

○合格者説明会のときに自転車保険の大切さについて教え、こちらで用意した2社のパンフレットを配付し自分たちで選んでもらっている。自転車保険に入会するという前提で生徒には自転車用のステッカーを配付している。

●9月に行われた第15回生徒研究発表会では全グループが口頭発表していたが、正直発表のレベルが落ちたと感じている。

○第15回では課題研究Ⅱのみでグループ数が少ないため全グループが口頭発表でないと行事自体が成り立たなかった。プレゼンテーションのツボを間違えている生徒が多かったので、今後指導していきたい。第16回は代表グループのみが口頭発表を行い、他グループはポスター発表となる予定。

8 その他

(1) 文京自治会より

今年度の夏の文京中央祭りのとき、自治会からの連絡が不十分だった。来年度はもっと早めに連絡を取り、生徒たちに協力してもらいたい。また夏ごろの草取りに参加させてもらった。最近、グラウンドと相模女子大学の間の花壇に空き缶やタオルが掛かっているのをよく見かける。あの花壇にはサポーターズグループと書いてあったので、中央自治会の会員から「高校が管理されていないのではないか。ずっとあのままではないか。」等の声が挙がっている。これは改善の余地があるのではないかと思う。

また、定時制の学校へいこう週間に初めて参加させていただいた。定時制はこういう教育をされているのかと、改めて昔の定時制のイメージは変わったなど、とても良い教育だった。

毎年文化祭に参加させていただき、来年度も是非参加したいので、日程が分かり次第早めに連絡をいただきたい。手芸や絵画や書道などを通して総合産業高校との繋がりを深めたい。

(2) 定時制後援会より

生徒一人ひとりが主体的・能動的に行動することができるように取り組むというのが本当に素晴らしいことだと思った。その結果が部活動の成績につながっているのだと思い、これからも継続していただきたい。生徒全員が主体的・能動的に取り組めるように、これからも宜しくをお願いしたい。

(3) 全日制サポーターズより

アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れてもらい、「失敗は怖くない」というのが分かって、上級学校に進んでもらいたい。この学校は先取りして前へ前へ進んでいるので今年より来年、来年より再来年といった形で生徒たち自らが楽しめる学校を目指してもらいたい。

以上